

アルジェントソーマ日記

ALPHENTΣOMA

対称と非対称と



妖精の国の
ハティ

物語の始まり

以下はTVアニメ「アルジェントソーマ放映中に交わされた会話である。

いや～面白かったです。モチーフは「フランケンシュタインの怪物」というか「ミツバチのささやき」ですね。。たぶん。(^^;確かに、重くて、暗くて、辛い作品になりそうだけど、物語そのものは比較的シンプルだと感じました。ただ、主人公（宇宙飛行士志望で、宇宙飛行が軍の所轄になったので冶金？に転部したのかな？）がモルグにひっぱられた経緯がちょっと判りにくかったです。

「アルジェントソーマ」はギリシャ文字で書くんですね。zoma の意味が判らなかつたのですが「肉体」ですか。ドイツ語で zomatic が確か「細胞」だから近い意味かと思っていたんですが。とすると「銀の肉体」、フランクに相應しい名前ですね。フランクの体組織からすると「細胞」でも意味は通りそうです。原理的には、ホーガンの「造物主の掟」に近いようです。なんといっても表現が非常に細やかで、非常に美しいのに感動しました。テーマは重くて凄惨なのに、みていてどこか安らぐ気分。とても不思議な感覚で、今までのアニメに余り感じたことのないものでした。物語として色々な要素が盛り込まれているのに、うまく融合しています。このまま進んでくれたら、よく出来たアニメというだけでなく、人気も出そうな予感がします。

第一話において、非対称な構造を持った人工物質に、タクトが「ソーマ」と名前をつけるシーンがありましたが、非対称構造というのは、この物語の重要な要素なのかもしれませんね。どことなく、天使じみたスマートなエイリアンに対する、ツギハギで左右非対称なフランク。そして、やはりフランクとは余りに対照的な均整のとれた美しい少女、そしてタクトの死んだ恋人。タクトはもしかして、片目を失ったのではないのでしょうか？つまり対称性を失ったと。

有り難うございます。しかし、実際は東京のみのオンエアな上、昨今はやりの、「萌え」アニメでもないために、今イチ、感想の分量も少ないんですねえ。トホホ。その意味では、賛否も含め、ゲートの方が注目度は高かったですね。

- > 第一話において、非対称な構造を持った人工物質に、タクトが「ソーマ」と名前をつけるシーンがありましたが、非対称構造というのは、この物語の重要な要素なのかもしれませんね。

くう。相変わらず鋭い。お世辞じゃなくて本当に。この作品の初期タイトルは「アンシンメトリー」でした。それが、どんな意味を持つのかは、何話かすれば判ると思います。

様々な意味での「非対称」が出てきますので。

元々、対象や非対称という問題に興味はあったのですが（鉱物学では重要な事です）ここしばらくは、マーチン・ガードナーの「自然界における右と左」を読んでからにどっぷりはまっています。（^^; シンプルだけど、つきつめると奥の深いテーマですよ、宇宙とか生命の根幹にかかわるような。

今日は放送大学で、メタンCH₄をベースにして、その分子バリエーションがどのような構造を持っているかをCGで解説していたのですが、まるでお経のような講師のナレーションにも関わらず面白かったです。水素分子を別な分子に置き換えて対象性がどこまで維持されるかという解説は、これまで話題になった光学的異性体に関する説明として良く出来ていました。ちなみにマーチン・ガードナーの「自然界における左と右」（紀伊国屋書店）の新版が最近普通に本屋で手に入るようになったみたいなので、ぜひお勧めします。ついでに言えば同じくガードナーの「奇妙な論理Ⅰ、Ⅱ」社会思想社は現代人必読の書です。（^^; 対称、非対称という問題は、すごく面白いですよ。

非対称に関する覚え書き

鏡と非対称

非対称とは何だろうか？それは対称でないものである。学校の数学でも習うけど、対称軸という言葉をご存知だろうか？例えば2次元の世界で、円は中心を通る線であれば、そこから折り曲げて重なる形に分割する事ができる。こういった線を対称軸と言う。円の場合には対称軸は無限に存在する。正方形の場合にはそれが4本である。ハートの場合是一本しかない。対称軸が存在しない図形もある。鍵十字などがそうである。我々が住んでいる3次元の世界では、対称の基準は線ではなく面になる。これを対称面と呼んでいる。対称面が存在する物体が対称であって、存在しないものは非対称と呼ばれるのである。もっと簡単な定義がある、鏡に映った像、すなわち鏡像に元の物体を重ね合わせる事ができないものが非対称である。マクロな物体、我々が目にする物の多くは非対称である。人間もそうである、内臓の配置は右と左で違う。利き腕も違うし、一見すると対象に見える脳も機能的にみて対称でない事が判明している。

非対称と分子

ではもっと小さな物質の構成単位である分子はどうだろうか？この分子構造にも非対称構造があるのを発見したのはフランスの科学者ビオーであった。ある分子には偏光（振動方向の揃った光）の振動面を旋回させる働きがある事を発見したのである。これらは光学的異性体と呼ばれ、旋回する方向によって、D（右）型とL（左）型に分ける事ができる。パスツールは同じ成分を持った物質でも旋回性が異なる場合があること、そしてその物質の結晶の形がお互いの鏡像を成している事を発見した。パスツールのもう一つの発見は、

自然界には両方の異性体が混在しているが、生物の体の中ではどちらか一方のタイプしか認められないという事だった。後にドイツの化学者ファントホフによって、光学的異性体は、分子中の原子が有する立体的な配置の非対称性に由来するものである事が示された。パスツールは非対称性が生物の活動に重要な働きをしていると考えたが、これは正しかった。DNAの螺旋構造は非対称であり、生物は普通D型のアミノ酸しか利用できない生物活動が非対称性に依存している面は大きいのである。

非対称と原子及び素粒子

では分子を構成している原子は非対称構造を持っているのであろうか？原子は更にそれを構成している単位である素粒子と共に対象であると長い間考えられてきた。これはパリティの保存という言葉で置き換えが可能である。それは普遍のものであると考えられていたが、1950年代になって、いわゆる「弱い相互作用」の精密な観測によってパリティが保存されない事が判明したのである。コバルト原子が部分的に偏った β 崩壊をしており、素粒子とそれから構成されている原子には「区別できる片方」があり、非対称構造を持っている事が判明したのである。という事は素粒子や原子には非対称な鏡像が存在している事になる。それが電荷が反対の反粒子であり反原子（反物質）であると考えられるようになった。しかし、なぜ生物のアミノ酸はD型ばかりなのかという疑問と同じく、現在我々が観測できの物質ばかりで反物質が無いのかという問題は依然として解決されていない。

非対称と時間

パリティと電荷の対称性は時間の対称性と関係がある（CPT定理）。パリティの破れは電荷の逆転によって埋め合わされ、粒子と反粒子の対生成が起こるのだが、このパリティと電荷の組み合わせで対称性が保たれている限りは、時間の対称性は揺ぎ無い筈だった。ところが1960年代にパイ中間子における粒子と反粒子の生成の観測により、一方のエネルギー量が大きい事が判明した、これもまた非対称だったのである。必然的にもう一つの要素である時間も非対称である事が明らかになった。少なくとも、素粒子レベルにおいては時間さえも確固たるものではないのである。時間が非対称であるという事は対になる存在である時間もありうるという事である。ファインマンは反粒子は時間が逆転している粒子であるという解釈も可能である事を示した。

対称と非対称はまだ奥が深そう。この問題は多くの人々を魅了してきたが、マーチン・ガードナーによると作家であるウラジミール・ナボコフもその一人だそう。ナボコフはこれらの問題に造詣が深く、非対称は、その作品の多くのテーマになっている。有名な「ロリータ」はその代表的なものらしい。ううむ、確かにロリータは非対称かもしれないなあ。。ハティとフランクの組み合わせをなんとなく連想。じゃあ、ロリコンのエイリアンかよ。。ってのはあるけど。なんで彼女だけ助けたのかという理由としては説得力あ

るかも。(^^;タクトとソーマは同一人物だったのですね。これで、やっと主人公が誕生。OPがついていましたが、とにかく美しいのに感心します、映像には確かに破れたシンメトリーが非常に多く盛り込まれていました。しかし、何て言うんでしょうか？これほど重いテーマなのに、雰囲気は非常に優しい感じです。こういった色々な意味でハードな物語は尖がった部分が多いものですが、これからが非常に楽しみです、お世辞でも何でもなくて。シェイクスピアというと、真夏の夜の夢に出てくる次のような台詞があるそうです。

眠れ汝よ。されば我、汝を腕に抱かん。。セイヨウヒルガオの、甘きズイカズラをやさしく抱くがごとくに。。

セイヨウヒルガオとズイカズラはアサガオのような旋回性のツル植物で、セイヨウヒルガオが左巻き、ズイカズラが右巻きです。両者が非対称の巻き方をするとひどくもつれ合った形状になるので、イギリスの文学者は古くから深い愛情の表現としてこの二つを引き合いに出していたそうです。非対称に凝っている奴からのウンチクでした。(^^;

>原子には「区別できる片方」があり非対称構造を持っている

これはちょっと説明不足でした。素粒子の「スピン」と「区別できる片方」で非対称構造を持つことになります。

冷酷であろうとしても、ハティを前につい気が緩んでしまうソーマ少尉が微笑ましい。(^^;今回は、勇者王ガオガイガーにも出てきた「ソリタリーウェーブ」攻撃のリアル版でした。構造解析というのは非常に難しく、コンピューターの無かった昔は、極端な話、零戦でも戦艦大和でも「1本の棒」に単純化して計算していたのですが、コンピューターの発達した現在ではもう数を増やした要素に分割して計算する事ができます。ただし、要素が増えると指数関数的に計算量が増加するので、ある有限の範囲に要素を制限しなくてはなりません。これが有限要素法という手法です。

番組ではエイリアンを建築物に例えていましたが、地震などの振動で壊れないのを目標に解析するのと逆に、壊すために分析していたわけです。なかなかそれをアニメとして表現するのは困難だと思いますが、最初の攻撃が失敗してから、敵に弾丸を当ててその共鳴からウィークポイントを探るというのは、本当に実行可能かどうかという事はともかく、面白くて理解しやすかったですね。エイリアンがどう構造を変えても必ず弱点ができてしまうというのは、その構造の非対象性に由来するに違いありません。

タイトルの対称性と非対称性

以前からソーマのタイトルの規則性、「OX」->「XΔ」->「Δ□」->... に興味があったのですが、実はこれにはもっと大きな規則性。。というか対称性がかかっているのではないかと想像していました。これですぐに頭に浮かぶのは「回文」です、つまり「O

□」->「□○」ですね。ただ、アルジェントソーマの基本的なテーマに非対称性があるのなら、非対称な構造を持った「回文」というのも考えられます。「○□」->「■●」といったものです。この場合の黒と白の関係としては、言葉の意味をひっくり返すといったようなものが考えられるでしょう。さてこれからの題名はどうなるのでしょうか？ソーマは2クールだそうですから、おそらく26話ないしは25話になるでしょう。という事になると、13話が非常に重要になってきます。26話の場合は前半の最後、25話の場合にはまさに中央に位置するわけです。おそらく、13話の題名で法則性がある程度読み取れるのではないかと、そしてそれは非常に物語の重要な要素を含んでいると想像していました。さて、今日購入したNTに13話の題名が載っています。「絶望と希望と」がそれになります。これ自身が、非対称な構造を持った「回文」であると言えなくはないですし、物語の根幹に係わる言葉としても相応しいのではないのでしょうか？というわけで、今から14話の題名がどうなるか、わくわくしているのです。まあ、こんな楽しみかたもあるのですが、題名が少々覚えにくいというデメリットもありますね。(^^;この手の言葉遊びは「不思議の国のアリス」や「鏡の国のアリス」に良く出てきます。ソーマの登場人物をアリスに当てはめる事ができないか？なんてのも考えていたりするのです。

リアルな描写

冒頭は冥王星軌道外縁の宇宙空間に出現する巨大エイリアンでした。新宿を歩いていてみかけた、NASAが冥王星探査機の観測手法を公募するという巨大スクリーンのニュースを思い出しました。単体で超光速飛行が可能であり、重力を制御する機構を内蔵する(ザルクもこれを応用している、巨大ロボットの構造上の弱点をこれで補っている、巨大エイリアンもこれで潰れずに済んでいる)エイリアンをみて、今回強く感じたのが、トップ！の宇宙怪獣やシーフォートの金魚(作者はトップ！を観ていると思う(^^;))のように、どちらかといえば本能的に行動する「生物」？なのではないかという事です。それに対して、パッチワークであるフランクは自我を持っているようですね。

> 冒頭は冥王星軌道外縁の宇宙空間に出現する巨大エイリアンでした。

しかし、衛星軌道で迎撃時に、レーザーが基本的に不可視で、エイリアンの表面装甲が揮発し、ガス化した部分だけ光線が見える、という、無理難題なシナリオのト書きを、ちゃんと映像化してあったのに、ネットの書き込みを見ても、誰も、突っ込んで気付けてくれない。悲しい(笑)。

> エイリアンの表面装甲が揮発し、ガス化した部分だけ光線が見える

実体弾にしても、弾が飛んでいく表現でなく、着弾点の変化や残弾カウンターの数字の減少で発砲を表現していますね。レーザー迎撃システムにしても、従来であれば光り輝くビームが交差するといった絵になるのでしょうか。

エイリアンの出現の状況を見ていると、ジェットと膠着円盤を有するブラックホールのような構造が現われて、それから光の球になり、エイリアンに姿を変えます。背後には例によって光輪を背負っていますね。これらがエイリアンモーターによる重力制御に負っている事は間違いないでしょう。

サンライズのホームページを覗いたら、16話までの題名が載っていました。概観したところ、先に予想したような単純な図式ではないらしい。で、再度考察、現在のタイトルで「対」になっているのは、第1話の「再生と死と」、「絶望と希望と」です。全25話と仮定すると、最初と中心と最後に「対」がある形で対象性が維持されるのではないか？というわけで、最終話は「死と再生と」。つまり第一話を逆にして輪が閉じるというのを現在での予測としておきます。(^^;

そういえば、先日行ったベルリンの地下鉄で、乗り換え列車を待ってホームに立っていた時の事。向かいの壁に、色々なレリーフがついているのに気が付きました。顕微鏡、フラスコ、植物、鉱物、鳥、獣、農作物、工作機械、自動車。。。など。何を意味しているのかな。。。と思って端から見ていくと、左右で対称的な配置になっているのに気が付きました。そして中心をみると、それはフクロウなのです。そこでこれが「ミネルヴァのフクロウ」だと気が付きました。つまり智恵の象徴なんですね。こういったのはパズルみたいで面白いです。実は日本の首相官邸にも「ミネルヴァのフクロウ」がデザインされているんですよ。建物に相応しい人物が住人だったら良いのですが。(^^;フクロウに関しては「ミネルヴァのフクロウは日暮れに飛ぶ」という言葉もありますね。これは、物事の本質というのはその場では理解できず、事が終わってから見えてくるという意味だそうです。

この戦いはエイリアンと人類の生存圏（レーベンスラウム）を賭けた戦いという位置付けなんですね。粒子加速器を利用した荷電粒子砲は、若干の方向修正はできるけど、スペリオル湖の方向にしか撃てないみたいですね。エイリアンの進行方向は決まっているから、着地点がアメリカ東部だと仮定すると、あの方向が一番エイリアンがやってくる可能性が大きいのでしょうか、加速器の設置場所から考えると陸方向には地形の関係で撃てそうにもないし。イメージ的には、対戦中にドイツが開発した英国本土砲撃を狙った、例の「ムカデ砲」に近そうです。「絶望と希望と」というのは、やっぱり折り返し点に相応しい副題に思えます。

エイリアンとはなんだろうか？

アルジェントソーマもいよいよ後半に突入、今回は会議だけで一話にしてしまうという面白い構成になっていました。その分、登場人物が実に饒舌で、その芸風からもしやと思ったら、やはり脚本は野崎透さんでした。(^^;議題そのものは、エイリアンの本質に迫るもので、非常に興味深かったです。しかし、巡礼ポイントの位置が、今回の地図だと、モンタナ州の更に北のカナダ側になっていました。まあ、ロッキー山脈の辺なんでしょうね。(笑)今回は、イネス少佐の直感が非常に暗示的だったと思います。それで、改めて私もエイリアンの事を考えてみました。エイリアンは自ら超空間ゲートを開いて恒星間航行を行う能力と、光輪による重力制御？能力を有している非常に異質な金属生命体です。しかし、一方で、体型は非常に人類に近い。会議で述べられていたように、彼らが完全に地球外の存在であるならば、地球の一点を目指すという行動確かに理屈に合いません。ソーマ（タクト）も漠然と予感していたようですが、エイリアンとは実は人類の変形ではないのかと、私は今回強く感じました。アルジェントソーマ（銀の肉体）不老不死の体を得て、変わり果てた人類のなれの果て。かつて存在していたのかもしれない、先史文明の人々がその姿で宇宙に進出していった。そして、彼らは心を失い、本能と記憶だけで故郷を目指しているのではないか。それが、現在の人類に大きな災いをもたらしている。。。と。フランクはエイリアンの一部と融合しているハティと交感する事によって（量子結合？）人類としての意思を取り戻し、彼女を守るために戦っているのかもしれない。

エンディングにも現われている、宇宙への憧れというリュウ・ソーマの一面を良く示している回でした。成層圏迎撃戦闘機の描写が非常に良かったと思います。核弾頭ミサイル一発というのは、UFOに出てくる迎撃機みたいですね。(^^; フランクに自我がある。。。というのははっきりしたけど、これは元々あったものなのか？それとも二次的にハティとの接触などで形成されたのか？それで解釈がかなり変わってきますね。前にも書いたのですが、私は巡礼ポイントを目指すエイリアンを含めて前者ではないかと考えているのですが。しかし、シュタイナー（これ聞くと「戦争のはらわた」を思い出す）の戦闘機が、プロペラント（推進剤）が完全に補充されていない状態で、衛星軌道上まで上がれるのは凄いです。しかも、地上を通常の航空機のように滑走して上がっているし。最初は抱えているのをミサイルではなくてブースターだと思っていたのだけど。(^^;番組もあと半ばを過ぎてこれからクライマックスに突入して行くのでしょう。

ザルクがエイリアンを利用しているのは、まあ予想通りでしたが、モロにエイリアンの死体そのものだったのですね。ザルク＝棺桶、フューネラル＝葬儀屋の名前は伊達じゃない。エイリアンの死体集めと復活はノグチ教授も同じですが、軍はその技術独占のためにモルグを襲撃したのでしょうか。そして、フューネラルは体の良いモルモットだったと。。。

今回、グリーン中尉の過去が明らかになった訳ですが、やはり病気だったようですね、おそらくは放射線障害ですが、この時代の医療技術で、パイロットさえもこなせる状態を維持してはいるが、突然に終わりという恐怖に怯えているのでしょう。興味深いのは彼女のオジが明らかにミスターXと同一人物だって事です。そしてどう考えても空軍の関係者らしい事。もしかして、謎のままのザルクの死んだ筈のパイロットとも同一人物なのじゃないかと考えてしまいました。彼もまた何かを失い、その復讐しようとしているのかもしれないですね。

フランクへの「どこから来たのか?」「どこへ行くのか?」という質問に対する回答が共に「美しい場所」だというのは非常に興味深いです。これはエイリアンが巡礼ポイントを目指す理由とも一致するのかも。以前、エイリアンはもしかして人間そのものなのではないかと言いましたが、やはり、その美しい場所というのは地球なんじゃないでしょうか?やはり以前に、エイリアンは宇宙に進出した人々のなれの果てではないかと言いましたが、今回バックで流れた映像もそれを意味しているのかもしれないかもしれません。もしかして、ジャミラだったりして。(^^;

前回に続いて、今回も非常に面白かった。死を覚悟したグリーン中尉の前に現われたフランクとハティが美しかった。リュウ・ソーマも新しい生き方を選択したようですし。しかし、ザルク全機を破壊されたフューネラルはどうなるんでしょうか?ザルク5を襲撃した謎のザルクはどうも無人のようでした。おそらくはダミープラグ的な運用で、有人のザルクは単なる露払いとしか考えていないのかも。

ハティが帽子を被っているシーンが無かったのも印象に残りました。あれをみると「不思議の国のアリス」のお茶会にいた帽子屋を思い出すのですが、あの帽子は、ハティが現実を拒絶している象徴のように見えるんですね。今回、ハティの表情が大人びて見えたのも、それから脱却したからではないかと。ハティは自分の居場所を求めつづけていましたが、それは恐らく、巡礼ポイントへ向かうエイリアンも同じ。彼女に融合してしまったエイリアンの断片の影響がどのように出るか、ちょっと気になりますが。

>オペレーター

ジョオン、スカーレットと名前がありますね。ジョオンと言って思いだすのはキャプテンフューチャーのジョオン・ランドール。スカーレットは風と共に去りぬよりは、キャプテンスカーレットを連想。

トムは真夜中の庭で

ソーマの理解の助けになるかと思って、ニュータイプで紹介されていた本を買ってきました。

トムは真夜中の庭で フィリパ・ピアス 高杉一郎訳 岩波少年文庫 720円

ピアスはイギリスの作家で、この1958年に発表されたこの作品は非常に有名です。私はイギリスの児童文学作品に子供の頃からどっぷり漬かっている人間なので（好き嫌いは激しいですが）この作品は名前は知っていましたが、まだ読んだ事はありませんでした。ただ、同世代のウィリアム・メインは非常に好きでいくつも読んでいます。まだ読み始めたばかりですが、この本に登場する重要な人物にハティという少女がいます。イギリスの児童文学に関する私のイメージは「しっかりとした日常描写の延長に想像力豊かな世界が広がっている」というものですが、この作品もそのようで、楽しみです。ハティの名前が、ハリエット・バーソロミューなんで、この小説は確かにアルジェントソーマと無関係ではありませんね。（^;ソーマと直接関係のある内容じゃないのですが、この物語で示される、人間の記憶と時間といったものの考え方に、触発されるものは、確かにあるようです。巡礼ポイントの持つ意味に関するヒントになるかもしれません。この物語を読んでいて、大人になったアリス（そして子供でもある）の物語である映画「ドリームチャイルド」を思い出しました。ソーマ抜きにしてもお勧めの物語です。

前回のソーマを観て、ハティの表情が非常に大人びていたというのが一致した意見だったように思いますが、これは非常に重要な事なのかも。物語にたびたび出てくる対称と非対称なイメージ、主人公の宇宙へのあこがれとエイリアンの地球への回帰、これらとも密接に結びついている事柄のようです。一見するとシビアで陰鬱な表現が多いアニメーションですが、最終的に着地しようとしているのは、実は凄くロマンチックな結末なのかもしれませんね。そういえば、ソーマの登場人物の名前って法則性があるのでは？前から思っていたのですが、作家の名前なのかな？

この岩波少年文庫版には、付録としてピアスのメッセージが収録されています。これが非常に興味深いのですよ。

庭園はトムとハティの遊び場―共通の広場であった。（中略）塀で囲まれた庭園は、幼年時代の、保護されている安全を意味する。しかし、トムは庭園の高い煉瓦塀にのぼって、遠くのほうに広がっている、子供の心を誘うような風景の事をハティに教えてやる。そして、あとになると、こんどはハティが庭園をはなれ、川にそってイーリーの町まで下っていく。川というのは人生の象徴であって、たえず流れ、変化し、人間を運び去っていく。（中略）少なくともハティはもうトムを文字どおりの友達とは見なくなった。（中略）少年を追いついて成長してしまっただけである。（中略）思い出の中に再び自分の過去を生きはじめた

時にトムをもう一度ちゃんとみる事ができた。完全にみとめあったその瞬間に、ハティはむかしのままの少女としてトムの抱擁を受けるのである。(中略) 私たちはみんな、じぶんのなかに子供を持っているのだ。

これは、タクトとハティだけでなく。人類そのものに当てはめても良いのではないでしょうか？庭園を地球あるいは巡礼ポイント、塀の外の世界を宇宙と置き換えても良いでしょう。また、全ての登場人物の生き様でもあります。

「トムは真夜中の庭で」をかなり時間をかけて熟読しました。この本を今まで読んでいなかったのが残念です。しかし、結構有名な作品なのにソーマと結び付けている人をみかけないのが不思議ですね。(^^;とにかく非常に面白い物語で、私が今までに読んだ英国児童文学作品のベストテンに入る作品だと思います。トムの身に起こった現象が物語のなかでちゃんと整合性のとれた説明がされている点において、これを時間テーマのSFとみなす事も可能でしょう。あと作品中で引用されている黙示録の一部はSFファンならばお馴染みのモノです。あとハティの帽子とか、シェークスピアとか、巡礼ポイントが北米でなければならない理由とかのヒントもたぶんありますね。アルジェントソーマをこの作品に対するオマージュとみなす事も充分可能だと思われま。たぶん、スタッフに熱烈なファンが居るのでしょうか。何よりも、この作品を読んで、ソーマがこれからどのように展開するのか非常に楽しみになりました。

フランクの正体

あの指輪に書いてあった文字ですが、こう読めました。

TO LURII FROM KROKA (クローカーよりユーリへ)

これはレオーノフ飛行士が恋人か妻であるクローカーという女性から送られた指輪だったのでしょ。宇宙飛行士でユーリ・レオーノフと言えば、最初の友人飛行をした「ユーリ・ガガーリン」と最初の宇宙遊泳を行った「アレクセイ・レオーノフ」という二人のソ連の偉大な飛行士が頭に浮かびます。これから、かなり恐い事が判ります。19話で、スーが見つけたリングにも同じ文字が入っていたという事は、エイリアンは全てユーリ・レオーノフ飛行士だという事になるのです。つまり、巡礼ポイントをエイリアンが目指すのは、美しい地球の故郷(そして愛する者の元)へ帰還したいという孤独な宇宙飛行士の想いからだったのでしょ。レオーノフ飛行士は宇宙で遭難し「妖精の国」で再生されたけど、人間としての姿と自我を失い、その複製達が、想いだけを残してひたすら地球の一点を目指したものと考えられます。これだと、パッチワークであるフランクが機能した理由が判りますね、本来ひとつなのですから。では何故、フランクは人としての自我を取り戻

したのか？それはたぶんマキの満たされない想いが伝わったのと、ハティがプレゼントした、花でつくった指輪が自分が指輪を送られた時の記憶を呼び覚ましたのでしょうか。そして、巡礼ポイントで全てを思い出した。

リュウ・ソーマ（タクト・カネシロ）は非常に未熟な人間として描かれているのが何故か？その理由もある程度判った気がします。それはフランク（レオーノフ飛行士）との対比の意味が大きいのではないでしょうか？リュウの想いというのは相手に対して一方通行なんですね。宇宙に対してもそう、マキに対してもそうでした。しかしフランクは宇宙へ出かけて行ったが、地球に対する想いも強かった（そのせいで厄介な事になっていますが（^^）、指輪をみると愛する人への想いも一方通行でなかった事が判ります。タクトは永遠の形ある指輪にこだわっていたが（マキの意思を無視して）フランクは儂い花の輪を美しいと思う事ができた。ソーマはハードなSF設定とわりとシンプルなラブストーリーがうまく融合しつつあるように思います。そしてこんなところにも非対称のモチーフが。レオーノフ飛行士に起こった出来事や、軍がなぜエイリアンの真実を隠蔽しようとしていたのか。リュウの自分の人生の決着、フューネラルのメンバー、そして、ハティとフランクの運命など、結末に向けてどう描かれるか楽しみにしています。

フランクが「美しい」を繰り返しているのをみていると、なんだか不気味ロボを連想したりして。（^^;吾妻ひでお版アルジェントソーマとか。あ、考えてみれば先生の自画像は左右非対称ではないか、ソーマの役決定ですね。わはは。

ユーリ飛行士が遭遇したのは一種のブラックホールですが、SFで良く登場する特異点が剥き出しになったタイプ。そこで無数に分断された彼の体と意識が故郷をめざしす事になり、多くの悲劇を生んだ。重いけど、胸を打つ、本当に素晴らしい物語でした。

ブラッドベリもだけど、ライトスタッフもあり、もちろんオデッセイも。あとハインラインの未来史なんかも思い浮かべました。ううう、こんなのか観たかったんだよ。。叙情的なSFというと、ブラッドベリの十八番ですが、実際に日本の映像作品でこれに類するものって無かったと思います。どうしてもガジェットに重点が行ってしまうので。アメリカの作品ではやはりブラッドベリ原作の「火星年代記」のTVシリーズなんかがありますが。ソーマはもちろんザルクを始めとする魅力的なガジェットも豊富なんですけど、物語のしっとりとした部分と凄く上手く融合していますね。

ロシアの宇宙ステーションミールももうすぐ廃棄されますし、国際宇宙ステーションISSも予算超過を理由にアメリカは大幅な計画縮小を決定したそうです。アメリカが開発を担当していた居住用モジュールも中止が決まったそう。ユーリやロレンスのような悲哀を関係者は味わっているのでしょうかね。それにしても奥さんカワイイですね。CVは矢島晶子さん、大運動会のアンナちゃん好きだった。もっともあれみて、クレヨンしんちゃ

ん思い浮かべる人は少なからう。。芸達者な人だ。(^^;きゃんバニエクストラCDドラマの初代スワティ様は椎名へきるだったけど、二代目は確か矢島さんだったと思う。ユーリとタクトは非常に似た境遇にあった、ユーリの生き方がタクト（ソーマ）にどのような影響を与えるかがこれからの鍵なんでしょうね。

ロレンス将軍は予想していなかった。しかし、これで本人が帰って来たといえるのかなあ。不完全なコピーが帰ってきたと解釈したほうがいいのかも。原料にされたのが宇宙生物だったらいい迷惑。それにしても、帰還目的を自ら破壊してしまうとは、とことん不幸な人ですね。

私としては、あのペンローズ・ツイスターホールがどのようにして設置されたのか気になります。もしかしたら、本人の形状を変えて超空間移動してから復元するといった設備なんじゃないでしょうか？それがうまく目的地につながらず、故障して無限ループに陥っているのかも。。。。

そういえば、アルジェント・ソーマMLで、ガガーリンを知らない人がいました。TV観ていてEDのイラストを母親から「ガガーリンの写真？」と質問されたそうで。ユーリ・ガガーリンもアレクセイ・レオーノフも遥か過去の人となってしまったか。ロシアの現状を考えると、ソーマでソ連的な雰囲気を使っているのは非常に相応しい気もします。私はレオーノフ辺りから記憶にありますね、ソユーズ1号の制御不能によるコマロフ大佐の墜落死なんかは子供心ににもショックでした。

コピーであるとは言っても、本人の意思を持っているわけで#21で全てのエイリアンが亡き妻のために慟哭してましたからね。私は細かく分断されたのだと考える事にします。全部本物。(^^;

商業的にキャラ萌え要素を組み込む事は絶対に必要でしょうし、私も嬉しいのですが(^^;それだけに留まり、これだけのバックグラウンドがなかなか理解されないというのも残念な事ですね。世代ギャップだけでなく、若い人が本を余り読まなくなったりしているせいもあるのでしょう。かといって、朝の連続ドラマ小説のように、全てをナレーションで解説するのも興ざめ。私自身は、MLなんかでもできるだけバックグラウンドに目が向くような話題を振っているのですが、反応は結構良いです。それで、関連した本を読んでみようとか。。ガサラキ、リヴァイアス、アルジェントソーマというラインナップで考えると、私はどれも好きですが。ガサラキは設定重視で、ややハードルが高すぎたような気がします。リヴァイアスはハードルを低くするために、学園モノの要素を取り入れてそれなりに成功したけど、リヴァイアスという閉鎖された空間のために、せっかくの他の設定と

乖離してしまった感はぬぐえない。アルジェントソーマはその点バランスが良いと思いますね。ユーリ飛行士の故郷と妻への想いが根本にあるように、ストーリーと設定が上手く融合しているように思います。

ペンローズツイスターホール

意識を共有しているというのはどうでしょうか？でないと、他のエイリアンの行動が説明できない。もしかして、ユーリの生身の体はペンローズツイスターホールにあるのかも。とにかく、フランクの覚醒によって、とりあえず地球の危機は去ったのでは。次回はあの美しい巡礼ポイントは熱核兵器によって消滅し、以後はフランクを仲間として受け入れたフューネラルの戦いが始まるのでしょうかね。たぶん。それにしても……。

>> ペンローズ・ツイスターホール

ペンローズ先生、ごめんなさいという感じですね(^)。まあブラックホールとか、手垢のついた言葉を使いたくなかったので、宇宙物理学者さんの名前を使わせてもらった次第です。そう言えば、今年は2001年だったんですよね。どちらかと言うと、私の頭の中にあっただのは、ここ数年でいちばん好きなSF映画「コンタクト」からです。それと例の星雲は、この後さらに……。まだまだ最終回まで、大仕掛けを用意しております（笑）。

> ペンローズ・ツイスターホール

私はこの名前が出てから、色々と楽しい想像をしておるのですよ。(^^;アルジェントソーマという物語には「非対称性」というモチーフがあり。色々な非対称性が散りばめられています。服装やメカのデザインも非対称ですし、主人公の顔を非対称、そしてフランクの姿も非対称となっています。そういった外見的な要素に留まらず、このモチーフは色々な部分に認められます。そういった延長として、生命活動に必要な物質が非対称性を持っていること。およそ宇宙を構成している色々な階層で対称性の破れが認められるという事を、以前に紹介した事があります。そんななかでも、ペンローズのツイスター理論は最も過激なものの一つです。古来から哲学者、そして物理学者達は、宇宙は対称性を持っている美しい存在であると信じてその構成要素を追究してきたわけですが、色々な局面で対称性の破れに直面する事になりました。それでも多くの学者はもっと研究が進めば対称性は保存されるであろうと信じているのですが、ペンローズは元々宇宙は非対称であったと主張しています。ツイスターはその非対称な宇宙の構成要素として想定されているものです。そんな理論は美しくないという反論に対して、ペンローズは、偉大な芸術や音楽は非対称な要素を持っている、雲ひとつない青空だけでなく夕映えだって美しいではないかと主張しているそうです。

テーマの一貫性という事を考えると、ここでペンローズとツイスターが出てく

るのは究極かな。。。と。(^^;

フランク（ユーリ）が目指した美しい場所は、麦の穂が色づいて金色に輝く平原の広がる場所でした。その美しさも非常に儚いものであり、永遠に続くものなどないという事を思い知らされたわけですが、だからこそ美しいのでしょうかね。そういった事とも関連付けてみたりしているのです。

そういえば、ペンローズの関心は生物の意識にも及んでいて、意識は脳の構造のなかに含まれている高次空間にまで及ぶ量子的な機構の反映だと主張しています。とにかく過激なお方ようです。(^^;そんなわけで、人工知能には極めて批判的で、アニメ版 ToHeart の長瀬主任と浩之の会話を聞いたらペンローズ先生はきっと怒るに違いありません。(^^;

> アニメ版 ToHeart の長瀬主任と

> 浩之の会話を聞いたらペンローズ先生はきっと怒るに違いありません。(^^;

ますます、ペンローズ先生、ごめんなさい（笑）。ちなみに、この「××××先生ごめんなさい」という台詞、元ネタは「けっこう仮面」なんですよねぇ。わはは。

ここは ToHeart 送りつけてマルチ萌えに。。。。(^^;学者も個人的体験の影響が大きいような気がします。先日、あるサイエンス系のページで、青山学院大学の有名な二足歩行ロボットをテーマにしている研究室が紹介されていたんですが。ロッドアンテナがロボットの額の所についていて、インタビュアーが質問すると「これは飾りでなくアンテナです、他に付ける適当なところがなかったので」と弁明。うそつき~(^^;

ペンローズについて、ウチにある本で調べなおしているのですが、色々面白い事が判りました。先生（←つい呼んでしまった(^^;)）は元々、数学者なんで、幾何学が好きなんです。それで5対称軸を持った図形パターンで無限に面を埋め尽くすという研究なんかもやっています。こういった図形としては★なんか代表なんですが、■（これは4対称軸図形）なんかと違って、同じパターンで繋げる事ができないので、不可能だと考えられていたんですよ。結晶構造でも5対称軸パターンは存在しないというのが定説でした。ところがペンローズは局所的に複数のパターンを組み合わせれば5対称軸という性質を全体に維持したままで、可能である事を発見しました。非常に美しい図形になります。

もっともこれは、パズルのようなもので結晶構造などでは在り得ないと思われていたのですが、1982年になってアルミニウム・マグネシウム合金の一種が同様のパターンを持っている事が発見され、研究者を驚かせました。生物の組織とかだったらいざ知らず、金属の分子がまるで打ち合わせでもしたように、集合してパズルを組立てるように結晶を形作るのですから。これは準結晶と呼ばれています。なぜ準かというと、しばらくパタ

ーンが続くと力尽きたように終わるからです。局所的ならば結晶パターンの調整が働くメカニズムは良くわかっていません。なんとなくエイリアンの金属の体の仕組みとも通ずるものがあるかも。

ちょっと訂正、準と呼ばれる理由はパターンが厳密には繰り返さないからでした。局所的というのも不適切だった、むしろ普通の結晶構造の方が局所的なルールで全体ができあがる。準結晶の場合は、個々の分子が大局的な構造を理解して配列しているとは見えないという事です。この調整を行っているメカニズムは不明なのです。ああ、しかし、実生活に役に立たない勉強だ。。(^_^;

役に立たない勉強ついでに「超ひも理論入門（下）」（ブルーボックス）を朝まで読んでしまった。といっても、別にソーマのためじゃなくて、私の読書法は興味のわいた時に集中的に読むってものなので。(^^;これって、超ひも理論と言いつつ、下巻はペンローズのツイスターの解説がメインなんですけど。。結論から言いますと、さっぱり理解できず。(^^;唯一理解できたのは、ツイスターは宇宙の構成要素を幾何学的に表現しようとした試みであること、非局所的な繋がりが普通の時空でなく複素数空間を通してあること。宇宙の構成要素は最初から非対称であると仮定すること。。くらいなものです。結局、先に紹介した5対称軸の図形パターンのようなもので、宇宙が構成されていると考えれば良いらしい。ペンローズは1960年代にホーキングと共同でブラックホールについて研究しているらしいので、古本屋のワゴンセールで300円で買ってきた「ホーキング宇宙を語る」でも次に読んでみる事にしますか。(^^;

> 役に立たない勉強ついでに「超ひも理論入門（下）」（ブルーボックス）を朝まで読んでしまった。

ソーマのために読んだ本が、まさしく、それでした。もっとも私も、肝心な部分はさっぱり理解できず（苦笑）。あと、核パルスエンジンに関する設定や解説などでは、ブルーボックスの「銀河旅行」が素晴らしく役に立ちました。ありがとうございます。

「ホーキング宇宙を語る」を読んでいても、ペンローズ先生はブラックホールの特異点の接近には非常に懐疑的みたいなので、ブラックホールという名前を使わなかったのは大正解のような気がします。ペンローズ・ツイスターホールって響きも良いし、解釈の幅が広がって良いのではないのでしょうか？宇宙の対称性について、ここまで開き直っている理論は他にありませんし。単純な大質量ではなくて、ツイスター理論から導き出される現象と解釈できますもんね。そのうち先生がなんとかしてくれるでしょう。(^^;

>ブルーボックスの「銀河旅行」が素晴らしく役に立ちました。

他に類書ありませんからね、本当は光世紀カタログ（百光年以内の天体に関する情報リ

スト)も欲しかったのですが、そう思っているうちに絶版というか、石原氏の自費出版だったので、保管料がかさむので裁断処分にしてしまったそうです。ハードSF作家くらいしか利用者居なかったんだらうな。銀河旅行は古本屋で見つけるたびに買っているので、まだ何冊かストックがあります。他にも設定用に欲しい方がいらっしゃったらどうぞ。某作品の設定話をワイワイやっていた頃が懐かしいですね～(遠い目)

題名について

>最終話は「死と再生と」。つまり第一話を逆にして輪が閉じる

と予測していたのですが、ニュータイプに記載されている最終話の題名は「愛と再生と・・・」でした。初回の題名観たときに直感した「回文になっているのでは？」という予想は当たっていたけど、ソーマのテーマにある未来志向的な部分を考えると、単純な輪廻を思わせる題名よりはこちらの方が相応しいですね。まあ、半分正解だったので良しとしよう。(^^;今回はちょっと方針に反して、番組を観る前にニュータイプを熟読してしまったので、今後の予想はこれをもって終わりにしたいと思います。(^^;とにかく、最終話までの展開が楽しみです。

ニュータイプの片山一良監督へのインタビュー良かったですね。自分がアルジェントソーマという作品に対して感じていたモノが間違っていなかったのが嬉しいです。色々な細かい部分に対してもシンパシーを感じるのは、自分に近い世代で、体験に共通点が多いのもあるのでしょうか。

おお、凄いぞ！ロレンス将軍がかっこいい。やっぱり、エイリアン達は全て本物で、ユーリの心が細かく裂かれたのだと考えたいですね。あの墓を守って死んだ姿をみれば。ロレンス将軍がザルク2のパイロットだという予想は当たっていたけど、彼の意図は完全に誤解していました。片山監督のコメントによると、ロレンスはタクトに生きる力を与えるために、あえて復讐心を利用したのだそうです。2号機のパイロットの話はブラフだったと。それにしても、最終回に向けて全力疾走を始めた感じですね、今回は作画に私でさえ多少難点を感じたけど、それを補って余りある面白さです。しかし、全く別な意味で「復讐」という言葉が頭にちらつく私なのでした。(^^;

そういえばあの爆弾はレーザー弾頭方式なんですね。純粋に核融合を利用する爆弾。環境に優しい核兵器？(^^;

ロレンス少将がかっこいいですね。でも、少将がなんで2号機のパイロットだったの。と

いう疑問も出てしまいました。もしかすると、最初にエイリアンの正体に気づいて消されかかり、テスト飛行で事故ったことに行方くらましたのかな。

フューネラルがロレンス将軍の影の影響力を駆使して成立した組織だからなんでしょう。タクトを送り込む能力からしたら、サルク2のパイロットの経歴を改竄するなんて楽なものだと思います。フューネラルはやはり葬儀屋じゃないですよ、もう一つの「嫌だけどやらなければならない義務を果たす人」という意味なんだと思います。メンバーが死者だというのは当たっていなかったけど、生きる力を与えられている人々というのは多分正しい。その力は超自然現象なんかではなく、もっと素朴な意思の力によって生み出されているのだと思います。重苦しく見えた多くの設定が真の姿を見せて輝き出す瞬間というか、カタルシスがある物語って良いですね。たぶん、シモンズ中尉の裏切りにもまだ裏があるのだと思います。

フランクの覚醒でエイリアンは来なくなるかと思ったら、そんな事はなかったですね。むしろ事態が悪化しているような気がする。(^^;

発売されたばかりのアルジェントソーマCDドラマを購入してきました。あの重厚で重々しい雰囲気そのままギャグをやっているのが凄く面白いです。といっても、本編と乖離しているわけではなく、キャラの本音特集といったところですね。(^^;

第一話「スーとハティと」

スー・ハリス中尉とハティの珍道中、どっちが子供なんだか判らない。しかし、ハリス中尉がVHDのコレクターだったのが凄いですね。動くのかなあ？それとアメリカでは子供のギャンブルは許可されているのでしょうか？(^^;

第二話「スカーレットとジョオンとアイと」

オペレーター3人娘の給湯室での息抜きを描いたお話。それぞれの女の子のご鼻屑が居るのが面白いです。リュウには「右」のファンと「左」のファンが居るってのが面白い。なんかこのままで〇オイ話のネタになっちゃいそうだな~(^^;ちなみに、オペレーターは3チームあって(なんか宝塚みたいなネーミング)シフト体制を組んでいるのですが、私たちが担当している時に限ってエイリアンが来るとこぼしていたのに爆笑しました。確かにそうですね。それと、リュウの「趣味」は周知の事実。(^^;

第三話「ダンとエレインと」

一部で根強い人気を誇る、ダンの妹エレインちゃんがフューネラルの見学にやってくるお話。他の面々はダンに協力しようとするのだが、悪意が見え見え。ダン・シモンズ中尉ってもしかして皆に嫌われているのかもしれない。裏切ったのはその復讐か？(^^;リュウは

冷やかな対応ですが、ダンがエレインの見学を中止させようとするのに批判的なのは、エレインが自分の趣味なのかもしれません。(^^;結果オーライですが、感動的なEDなのに爆笑したくなるのは何故？(笑)

アイ・ハルナ三等准尉

オペレーター3人娘はサブキャラにしては登場場面が多いし、CVも人気声優さんがあてているので、色々なボードで話題になる事も多いのですが、ここでそのフルネームが明らかになりました。

チーフオペレーター

スカーレット・オハラ准尉（CV榎本温子）

セカンドオペレーター

ジョオン・ランドール三等准尉（CV川澄綾子）

この二人はクレジットにありますが、フルネームは予想通りでしたね。(^^;三人目はクレジットにも出ないし、謎だったのですが、このCDで明らかになりました。

アイ・ハルナ三等准尉（CV有島モユ）

う〜ん。。。 (^^;

有島モユさんて、センチメンタルグラフィティ2で安達妙子やった方ですね。センチ2は全然やってないので知らないのですが。彼女は結構ファンダムでも話題になっていたのですが、回答は身近なところにあったのかもしれないな。(^^;

若い人のために解説しておく。(^^;スカーレット・オハラは戦前にカラーの超大作映画化で有名なアメリカの人気小説「風と共に去りぬ」のヒロインの名前。ジョオン・ランドールは古典的スペースオペラ「キャプテンフューチャー」に登場する惑星パトロールの美人女性隊員の名前。あと、ギネビア・グリーン中尉のグリーンとスカーレットは、全員色の名前がコードネームとなっていた！TCのスーパーマリオネーション「キャプテンスカーレット」も連想します。オハラはアイルランド系の名前で、ソーマのテーマでもある宇宙開発の初期においては、宇宙飛行士の健康管理を担当したオハラ看護婦が有名です。ライトスタッフを始めとする色々な本や映画に登場する人物です。

- > あと、ギネビア・グリーン中尉のグリーンとスカーレットは、全員色の名前が
- > コードネームとなっていた！TCのスーパーマリオネーション「キャプテンスカー
- > レット」も連想します。

一応、ジョオンはフランス語の「黄色」、アイは日本語の「藍色」、ほかツィノーバは「橙」と、ギネビアさんのグリーンを加えれば、七色のスペクトル光が完成するようにしております。

アイは藍色の藍だったのですね。iモードのアイとも解釈できるのは偶然でも、ハルナはなあ。。(^;そこまで、色に配慮しているとは思いませんでした、しかもハイブリッドに解釈できるというのが凄いです。それでも、スカーレット・オハラとジョオン・ランドールはまだ表面上は判りやすいじゃないですか。ざっと色々なファンサイト覗いたのですが、みんなその延長でハルナを解読しようと苦しんでいますよ。これって絶対に不可能ですね。(^^;

ドラマでは、警報でスカーレット（赤）ジョオン（黄）アイ（藍）が持ち場に戻るとシアン（青）ピオレッタ（紫）が居る事になってたようです。この他にツィノーバ（橙）がいて、これがレインボーチームなんでしょうね。これにグリーン（緑）が加わって七色揃う。とするとフラワーチームは花の名前に違いない。しかし、気が付くのは結構難しいかもしれないな。(^^;

登場人物の名前

ハティは前にも書いたように「トムは真夜中の庭で」に登場する女の子。ユーリ・レオノフは「ユーリ・ガガーリン」と「アレクセイ・レオノフ」からでしょう。しかし、主人公の名前が判らん。(^^;アイ・ハルナはコレクターユイに登場する。コレクターアイとコレクターハルナの合体だという説が絶対に浮上すると思う。(^^;デビッド・ロレンスは映画監督デビッド・リーンと代表作のアラビアのロレンスからかな？コマンダーはラナ・イネスですが、バロウズのペルシダーシリーズにデビッド・イネスという人物が出てきたりもしますけど。作家としてはハモンド・イネス、ミハエル・イネスなんかがいる。ラナはけっこう多い。ダン・シモンズはSF作家でハイペリオンシリーズで有名ですね。ギネビア・グリーンはギネビアはアーサー王の妃の名前と考えるとちょっと意味深。(^^;あと作家のグレアム・グリーンなんかも連想します。スー・ハリスのスーはキューブリックの映画「ロリータ」でロリータを演じたスー・リオンなんかを連想、ハリスだったら作家のトマス・ハリスかなマイケル・ハートランドはイギリスの冒険小説作家。

>第二話「スカーレットとジョオンとアイと」

今気が付いたけど、これって赤黄青で、要するに信号機ですね。(^^;

いきなり通信回線に割り込んでくるロレンス将軍みて、青の6号のゾーンダイク博士を連想しました。彼も一種の天才ですね、協力者は居るのかもしれないが、あの才能と実行

力は敬服に値します。。っつうか人間技じゃないな〜(^^; 今回はオペレーターの女の子の描写が長くて嬉しかった。アイ・ハルナさんもアップになってたし、ちゃんと台詞がありましたね。(^^;ダン・シモンズはあらゆる掲示板で非難されているけど、私は裏切ったとはとても思えない。(^^;最初に彼がスパイとして送り込まれたのは確かでしょう、しかし、無能な上官にうんざりしたというのがイネス司令に向けられたものだとはとても思えないです。あれは本来の上司であるギルゴア大佐に向けられたもので、私フェーネラルに協力しますという意思表示のように聞こえたのでした。今回リュウ君は両手に花状態に近かったかも。(^^;ギネビア・グリーン中尉の幸運を祈ります。

すがすがしかった最終回

良かったです。思い返すと、凄く素直な作品でした、こんなマトモな大団円は久しぶり、感動もできて、後味も素晴らしい作品でした。数年のブランクを経ていきなり宇宙船の宇宙士に復帰できるタクトが凄い。あの状態から6年で博士号を取得できるハティも天才ですね。タクトに関しては、ユリシーズがパイロット候補生だった時代に、すでに存在していた宇宙船であり、刑務所でも勉強していたようですが。ダンとスーが結婚していたのは、ちょっと以外でしたが、あの小さいギネビアは、亡くなったグリーン中尉に似ていましたね。ハルナさんはユリシーズの乗組員として宇宙に旅立ったみたいですね。(^^;

あの星雲にこのような伏線があったとは。。ペンローズツイスターゲートはバーナード星に繋がっているようですね。ペンローズツイスターゲートは特異点がむき出しになったタイプのブラックホールだと思われます(たぶん)。特異点の周辺では、空間と時間が重なり合っており、中に入った金属分子が取りうる構造全てが存在するのかもしれませんが。それにより原始の地球で数多くの有機物の組み合わせから生命が誕生したように金属生命体(妖精)が生まれたのかも。ユーリ飛行士の分身も、そういった時空構造のループで形成された可能性があります。要するに、起こる可能性があれば起こってしまう。。。と。(^^;

小さいギネビアが、グリーン中尉に似ていたのも、一瞬彼女のクローンかとも思ったのですが。。まあ、そこまで考える必要はなさそうですね。(^^;とにかく楽しい半年でした。スタッフの方々に感謝いたします。

アルジェントソーマ日記

ΑΠΗΕΝΤΣΟΜΑ

対称と非対称と

妖精の国のハティ

平成13年8月12日第2版発行

企画 軍事史通信HARUNA

編集・発行ブラック・ストーン

発行所 ハルナネット

協力 SFアラモード

印刷 ウチのプリンター

E-mail:sirane@bu. iij4u. or. jp

誤字・脱字・乱丁・落丁は笑って許して下さい